

# 現日研・談話資料 職場編 の成立

現日研・職場談話コーパス公開記念シンポジウム

遠藤織枝

20180903

# ｜ 現代日本語研究会（現日研）のあゆみ

1977年 発足

1980年 研究誌『女性による研究誌ことば』発刊

1981年～1984年 共同研究：国語辞典の総合的研究

1985年『国語辞典にみる女性差別』（三一書房）刊行

1993年～1994年 東京女性財団補助金 共同研究：職場における女性の話しことば

1994年 15号から、研究誌に冠していた「女性による」をはずす

1997年『女性のことば・職場編』（ひつじ書房）刊行

# ことば

1号

目次

はじめに

- |                                |             |
|--------------------------------|-------------|
| 「ことば」の創刊に寄せて                   | 市川 孝 (1)    |
| 中世語の仮定条件表現について                 | 泉 桂子 (2)    |
| 女性を表わすことば                      | 遠藤 織枝 (19)  |
| 「女に道を聞くな」考<br>-説明文のわかりやすさについて- | 小林 美恵子 (55) |
| 修飾について                         | 高崎 みどり (71) |
| 敬語と高校生<br>-ある高校での調査から-         | 丸山 和香子 (79) |
| 接続助詞「から」と「ので」について              | 三井 昭子 (90)  |

現代日本語研究会

# 国語辞典にみる 女性差別

ことばと女を考える会



1999年～2002年 共同研究：職場における男性の話しことば

2002年『男性のことば 職場編』(ひつじ書房)刊行

2006年「ことばとジェンダー賞」—寿岳章子さんを記念して—創設

2011年『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』(ひつじ書房)刊行

2011年～2016年 共同研究：日常生活の話しことば

2016年『談話資料 日常生活のことば』(ひつじ書房)刊行

2018年6月『今どきの日本語 変わることば 変わらないことば』

(ひつじ書房)刊行

2018年9月 日本語会話教科書『そのまんまの日本語』刊行予定

\* 院生留学生が当初から参加、「飛行機」博士・『ことば』博士誕生 \*

## Ⅱ「女性のことば・職場編」「男性のことば・職場編」 談話資料作成の経過

### 自分たちの話すことばの実際を知りたい

1980年当時の国語学概説書・会話教科書などのいわゆる「女性語」と、自身の話すことばとの間に差異を感じていた。

### 生のことばを集めたい

当時、生の談話を収集し分析した資料として井出(1985)があったが、主婦のことばに限られていた。現実の女性の話しことばの実態に近づくためには、より広い年代で、さまざまな職業についている女性のことばを対象としなければならないと考えた。

# 1 資料を収集し始める

1993年 財団法人東京女性財団の研究補助金を得る。

「女性のことば 職場編」(「女職」と略記)資料収集を始める。

研究メンバー: 現日研会員+会員以外の女性のことばに興味を持つ人。

各自インフォーマントを探すことから作業を始める。

インフォーマントの条件: 職場の談話の録音がとれること。

: 談話が研究資料として公開できること。

: 20代から50代の職業人。

女性財団への報告書と1997年の『女性のことば 職場編』刊行を経て、女性のことばを知るためには男性の話しことばの実態を知る必要を痛感。

1999年「男性のことば 職場編」(「男職」と略記)資料収集に着手。

## 2 インフォーマント(協力者)の内訳

### 「女職」

年代：20代5名、30代5名、40代6名、50代3名 計19名

職業：会社員10名（事務職3・編集職4・営業職・開発業務各1）

会社経営者1名、教員3名（大学・高校・小学校各1

名）・研究所助手2名・国家公務員・地方公務員・大学助手・大学事務職員各1名 計19名

### 「男職」

年代 20代5名、30代5名、40代6名、50代5名 計21名

職業：会社員9名（営業職3・事務職1・技術職5）、自営業4、教員

3名（大学1・高校2）大学職員3名、研究所アルバイト・

ミュージシャン各1名 計21名

# 3 資料採集方法

〔録音してもらう場面と時間〕

フォーマルな話しことばと、インフォーマルな話しことばを採集するため、各協力者に以下の3つの場面で録音してもらう。

1. 職場についてからの1時間（「朝」とする）
2. 会議・打ち合わせなどの1時間（「会議」とする）
3. 休憩時間の1時間（「休憩」とする）」

「朝」=あいさつ・雑談のほか打ち合わせなども含まれるため、  
フォーマル・インフォーマルな話しことばが、  
「会議」=主としてフォーマルなことばが、  
「休憩」=主としてインフォーマルなことばが、得られると想定。



## 4 協力者に依頼したことなど

1. 談話に加わった人々の情報、また、インフォーマントの関係をフェイスシートに記入してもらう。
2. 録音するのは同じ日でなくてもいい。
3. 「会議」と「休憩」は何回かを合計したものでもいい。
4. 録音していることを了解してもらったうえで録音してほしい。
5. 話の内容などで不都合な部分は文字化の段階で削除できる。
6. 資料整理の時、不明な点など確認させてもらうかもしれない。

## 5 録音収集時期・収集資料など

		「女職」	「男職」
資料収集時期		1993年10月中旬 ～11月中旬	1999年10月 ～2000年12月
収集資料	総発話者数	159名	215名
	総時間数	552分(約9時間)	728分(約12時間)
	総発話量	11421レコード	11099レコード

## 6 文字化

国研(1995)、宇佐美(1995)などを参考にする。

「女職」

一つのまとまりを1文とする。漢字は常用漢字以内。長音符号を使う。笑い・咳払い・間などの情報を入れる。談話が重なっている場合は(重なり)を入れる。談話中の人物名・固有名詞などは伏せるが、[名字][社名]などとして、何を伏せたかわかるようにする。

「男職」発話のときれの間を「女職」の1.2秒→3秒に。

「てか(=というか)」など注記を加える。

## 7 データベース化

文字化した談話資料を、データベースソフト「桐Ver.5」でデータベース化する。

1文を1レコード=1行とする。

収録情報:

「女職」

1993年のフェイスシートに基づいて「行番号・発話・発話者・相手・場面・発話者の属性・話者との親しさの関係・職場内での上下関係など約50項目。

「男職」1999年のフェイスシートに基づいて「職階関係」「入社年関係」「接触量関係」などを「女職」に追加。

## 8 資料の公開

1990年代以降、社会言語学関係の学会・シンポジウムで、良質の言語資料の収集の重要性、言語資料の共有化が喫緊の課題であると、論議されてきた。が、コーパスの共有化の実現にはいたらなかった。

現日研として、獲得した資料の私蔵化は避けるべきと考えた。協力者への配慮や、情報の記載方法、文字化の矛盾を解決するための再点検などを経て、『女性のことば・職場編』に付録として文字化資料のCD-ROMをつけることで、公開に踏み切った。

# 参考文献

井出祥子ほか（1985）『女性の敬語の言語形成と機能』文部省科学研究費研究成果報告書

宇佐美まゆみ(1996)「言い切られていない発話の“politeness”」昭和女子大学研究奨励金による報告書

現代日本語研究会(1994)『職場における女性の話しことば—自然談話録音資料に基づいて—』財団法人東京女性財団1993年度助成研究報告書

現代日本語研究会編(1997)『女性のことば 職場編』ひつじ書房

現代日本語研究会編(2002)『男性のことば 職場編』ひつじ書房

現代日本語研究会編(2011)『合本女性のことば・男性のことば（職場編）』ひつじ書房

国立国語研究所(1995)『テレビ放送の語彙調査Ⅰ』集英出版